二尊佛。

ゼンジョウホウオウ　禪頂法皇　→マツダイ　末代。

ゼンジョウマツ　禪定松　→フヂマツ　藤松。

センジョバシ　千女橋　金澤橋梁記に、『千女橋、材木町下』とある。橋の位置は詳かでない。

センジンガタキ　千仞ヶ瀧　白山尾添口登路に添ふ圓石川の上流に在つて、地圖に百四丈の瀧と記すものである。白山史に、『千仞瀧。土人曰。石壁高二十餘丈。瀧下常有ニ大風雨一。不レ可レ至。四五町外望レ之不レ見ニ水口一。但瀑水直下之狀。恰若レ決ニ積水一。六七分以下散而爲レ雨爲レ風。草木披靡。怒號聲震ニ於谷中一。』と載せ、古く白山記に『有ニ瀧水一號ニ高瀧一。人無レ通。不レ計ニ其長幾許萬仞一。』と記した千仞瀧も高瀧も同じことであり、白山遊覽圖記には千丈瀑布とする。又白山千歲谷から發する湯谷川の上流にも別に千仞瀧一名千丈瀧又は千手ヶ瀧と稱するものがある。

センシンジ　專信寺　河北郡大崎に在つて、眞宗東派に屬する。もと專信坊と稱したが、明治二十五年今の寺號に改めた。

センスイガハナ　千翠ヶ鼻　白山の尾添口登路なる美女岩坂の東南から、斜に山腹を陟る所で、上は山に倚り、下は圓石川に臨む。途僅かに一人を通じ、手に巖稜を執つて梯に上る如きものがある。今は馬の背越といふ。

ゼンセイイン　禪栖院　瑞翁山と號した。文和三年河北郡傳燈寺至庵が同寺境内に建立したのであつたが、前田利家の時金澤小立野に地を賜はつて之に移り、次いで利長の時河原町に、利常の時に野田寺町に轉じた。初めは臨濟宗であつたが、傳燈寺の一時衰へた際、臨濟宗法燈派になつた。この寺今は存せぬ。

センゾウイン　千藏院　加賀藩の寺方帳に、鹿島郡庵の眞言宗千藏院があるが今存せぬ。この寺に畠山氏歷代の位牌があつた。卽ち長禪寺殿春岩德元大禪定門(基國)・勝禪寺殿眞源道祐大禪定門(滿慶)・龍興寺殿芳彥德良大禪定門(義忠)・大寧寺殿大彥德孫大禪定門(義統)・興德寺殿久峰德昌大禪定門(義元)・興臨院殿傳翁德胤大居士(義總)の外に眞觀寺殿直源道瑞大禪定門と宗圓寺殿通仙德惠大居士とであるが、後の二靈は誰に當るか明らかでない。

センソウシツ　千宗室　宗旦の三子。茶道を千宗佐に學び、仙叟と號して今日庵に住し、妻千家の一派を立てた。寛文六年前田綱紀之を招いて百五十石を與へ、茶道茶具奉行たらしめたが、元祿十年正月廿三日七十六歲を以て京に歿し、大德寺中聚光院に葬られた。位牌は金澤月心寺にもある。

センゾクジョウ　千足城　江沼郡作見に在つた。北陸七國志天文廿一年七月朝倉宗滴加賀侵入の條に、敵は南郷・津葉・千足三つの城を構へたとある。江沼志稿に、今作見村領に千足谷といふがあり、土俗センゾガ谷とも大谷ともいふが、郭蹟明らかでない。この領の地名に物見山・陣取山といふもあると記して居る。

センゾクダキ　千束瀧　江沼郡小大日山から發する溪流は、女郎ヶ瀧・千束瀧をなし、千束瀧川といはれる。江沼志稿に、古へ薪千束を剪つて流したに、瀧壺の中に入つて見るを得なかつたによつて名づけるとあるが、附會であらう。千束瀧川は大聖寺川の支流である。

センゾユイショチョウ　先祖由緒帳　藩士が先祖以來の歷代及び親族・姻族を記載して、藩侯及び裁許頭に進達したものである。故に或は先祖由緒並一類帳ともいひ、元祿三年の書附には親類帳とある。正保四年三月之を徵したのが初めで、萬治二年には從弟以上を記載する例となり、寛文二年以後は屢之を取立てたものである。

センダ　千田　河北郡鞍月庄に屬する部落。

センダ　千田　羽咋郡邑知院内尾長保に屬する部落。大永六年十月一宮社務職年貢納帳に『千田五月田三段六』などゝ見えるものは是である。

センダイ　千代　能美郡德橋郷に屬する部落。村の中央に城址があり、附近に城の堀・馬場島等の名がある。

センダイ　千代　鳳至郡阿岸郷に屬する部落。郷村名義抄に、往古此の所に千鮒寺があつたから邑名になつたとある。永祿三年二月鐵川寺衆徒の訴狀に、阿岸千體寺と見えるから、彼の口碑は事實であらう。

センダイジョウ　千代城　能美郡千代に在つた。越登賀三州志故墟考に、この村の東、小野村との間なる畑であるといふ。德田志摩之に居た。天正八年柴田勝家その將拜郷五左衞門を置き、十一年前田利家亦こゝに兵を駐らしめ、慶長五年の役に七月晦日前田利長之を碧として、寺西若狹・不破丹波を置き、以て小松城に對する鎭としたと記する。

センタイヒカン　專對祕鑑　一册。御城御曲輪豐分野之事、御役人の事、國產之事等に分かつ。文化丙寅春正月伊伯陽著。蓋し加賀藩士の手控である。

センダゴウ　千田郷　河北郡に在つた。曆應四年八月七日攝津掃部頭親秀判書に、『藏土寺領分加賀國倉月庄内云々、千田郷内供料田二町。』とあり、後世千田村がある。

センダジダユウ　千田次太夫　大聖寺藩士。寛文十二年四月祿二百五十石を以て前田利明に仕へた。次太夫はもと加賀藩の士で、夙に山鹿素行の弟勘右衞門から兵學を受けた。寶永末年越前濱坂に住し、吟咏を以て一生を終つた千田暗庵は、大聖寺藩の仕を辭した次太夫の後身であらうといはれる。

センダショウエモン　千田庄右衞門　前田利長に仕へて二百五十石を受けた。子孫相繼いで藩に仕へる。

センダテンノウシャ　千田天王社　河北郡千田に在つた。式内等舊社記に、『千田天王神社。鞍月庄千田村鎭座。稱ニ牛頭天王宮一。舊社也。』と見え、寶曆の調書には天王宮とし、今は八坂神社と稱する。

センダマサユキ　千田政之　通稱駒之助・梅干之助・昌太夫。父は津太夫政德。安永九年新番となり、前田重敎の御近習等を經、天明五年新知百石を受けて組外に進み、七年又五十石を加へた。

ゼンダユウノミヤ　善太夫宮　能美郡寺井に在つて、後に白山宮と改めた。善太夫はその崇敬者の名であつた。

センダンヤシキ　栴檀屋敷　金澤材木町に石見屋といふ藥種店があり、此の後方は藩士和田左兵衞の屋敷の屻地で、昔より栴檀屋敷と呼んだ。古へ此の屋敷に栴檀の大樹があつ